

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値	目標値及び実績値				改善策	
				令和6年度		令和7年度	令和8年度	令和9年度		
【確かな学力】 児童の学びに向かう力を育成し、学力の向上を図る	基礎的・基本的な知識及び技能の定着	ドリルタイム及び合格証テストの取組を通して、個別指導の充実と基礎基本の定着を図る。	単元テスト(国語・算数)【知識・技能】の平均到達度	国語 80.5% 算数 83.9%	目標	国語 81%以上 算数 84%以上	国語 81%以上 算数 84%以上	国語 81%以上 算数 84%以上	両教科とも目標値を上回る結果となった。これは、各学年が漢字や計算技能への取組を行った成果だと思われる。従来の反復練習を中心に ICT 機器を活用した学習を仕組むなど児童の実態に応じて工夫している。今後も、学力差を考慮して、問題場面をイメージさせる手立てを取り入れるなど個に応じた学習支援を取り入れながら基礎学力の定着を図る。	
					実績	国語 81.8% 算数 86.6%				
	思考力・判断力・表現力の向上	長文読解や文章問題を正しく読み取るための方法(注目すべき文言に印を付ける等)を児童に意識させるとともに活用させる。	単元テスト(国語・算数)【思考・判断・表現力】の平均到達度	国語 85.4% 算数 74.9%	目標	国語 85%以上 算数 75%以上	国語 85%以上 算数 75%以上	国語 85%以上 算数 75%以上		両教科とも目標値を上回る結果となった。国語科においては、文章の前後関係を意識させた文章読解に取り組みさせた。また、算数科においては、式の意味を説明させたり、問題を図に表したりして、言葉を意識させる活動を仕組んだ。今後も、言語についての課題を意識し、読書活動と「ことばタイム」に学校全体で取り組み、言葉の力を育む。
					実績	国語 86.0% 算数 77.3%				
	学びに向かう力の育成	学び方や考え方の選択肢を提示し、児童が問題を解く際に「自己決定」しながら主体的に学ぶことができるようにする。	・児童アンケートの肯定的評価の割合 ・教師アンケートの記述分析	児童 86.8%	目標	児童 87%以上	児童 87%以上	児童 87%以上		児童アンケートの肯定的評価は 81.5%であった。教師アンケートでは、学級実態によって自己決定の場を設定することが難しいこともあるが、設定するように工夫しているという回答が多かった。 これまで自己決定(学びに向かうまでの基盤づくり)について研修を行って意識統一を図り、取り組んできた。 今後は、どのような場面で自己決定ができるようになるかを模索するとともに、児童どのような選択肢を提示したかを交流し、取組の充実を図る。
					実績	児童 81.5%				
【豊かな心】 児童の豊かな心を育成する。	自己肯定感の育成	適切な児童理解と肯定的な評価を行い、児童が「自分にはよいところがある」と考えられるようにする。	児童アンケートの肯定的評価の割合	92%	目標	93%以上	93%以上	93%以上	肯定的評価は 91.7%にとどまった。日々の授業や行事等において、教職員からの評価だけでなく、児童相互の肯定的評価を意図的に行っていく。	
	社会性の育成	教職員自身が見本となる行動をし、児童に「気持ちのよい挨拶をする」「時間を守る」「一生懸命掃除をする」習慣を身に付けさせる。	児童アンケートの肯定的評価の割合	挨拶 95% 時間 94% 掃除 88%	目標	90%以上	90%以上	90%以上		全ての項目で目標値を上回った。今後も、3点を鹿川小のよさとして児童に価値づけ、「気持ちのよい挨拶をする」「時間を守る」「一生懸命掃除をする」習慣を身に付けさせる。
【健やかな体】 児童の体力の向上を図る。	体力・運動能力の向上	体育科の授業や業間運動で瞬発力や柔軟性を高める運動を取り入れ、「長座体前屈」と「立ち幅跳び」に関する体力・運動能力の向上を図る。	体力テスト結果の県平均値(R1)を上回る割合	長座体前屈 17% 立ち幅跳び 8%	目標	50%以上	60%以上	70%以上	種目別では、立ち幅跳びにおいて低学年で改善が見られるが、依然として長座体前屈は全学年において課題がある。短期的な取組ではなく、毎時間の体育の授業で柔軟性を高める補助運動を全学年で行っていく。	
					実績	長座体前屈 26% 立ち幅とび 47%				

	基本的な生活習慣の定着	生活時間を意識させ、健康の保持増進のために生活調べを行う。(早寝、早起き、朝ごはん)	生活カードによる達成率	早寝 76.3% 早起き 76.8% 朝食 95.9%	目標 早寝 75%以上 早起き 75%以上 朝食 90%以上	早寝 80%以上 早起き 80%以上 朝食 95%以上	早寝 80%以上 早起き 80%以上 朝食 95%以上	1学期の生活カードの回答は、目標値を全て上回った。早寝については、これまで学年により就寝時刻を設定していたが、各家庭の状況を考慮して目標就寝時刻を設定するように改善した。児童が意欲的に取り組めるようにしたこと達成率に変容が見られた。しかし、早起きについては、6時30分までに起きることが難しい児童が一定数いる。引き続き、児童や家庭への啓発を続け、生活リズムが整うよう取り組んでいく。
【信頼される学校】 信頼される学校づくりを推進する。	学校満足度の向上	安全・安心な学校づくりを推進するとともに、学校だよりやHP等により取組状況を分かりやすく発信する。	学校満足度 ・情報提供…学校だよりやHP等で子どもの様子がよくわかる ・教育活動…学校の教育方針を分かりやすく伝えている	情報提供 96%、 教育活動 96%	目標 肯定的評価 90%以上	肯定的評価 90%以上	肯定的評価 90%以上	研究授業や体験活動等の行事を中心に学校の取組及び児童の様子をタイムリーに発信した。 今後も引き続き、取組内容及び児童の反応を発信し、保護者に理解を図る。
	学校における働き方改革の推進	会議は内容精選及び行事の精選を行い、教職員が児童と向き合う時間を確保する。	・時間外の会議の回数 ・児童と向き合っている時間が確保されていると感じている割合	4回(企画委員会) 肯定的評価 100%	目標 会議 0回 肯定的評価 90%以上	会議 0回 肯定的評価 90%以上	会議 0回 肯定的評価 90%以上	
					実績 情報提供 95% 教育活動 95%			
					実績 会議 1回(企画委員会) 肯定的評価 93%			概ね、時間内に会議を終えることができた。 しかし、企画委員会においては、懸案事項が多く時間が過ぎることがあった。引き続き、協議内容の精選を図るとともに、事前に出席者へ協議資料を配付し、会議の効率化を図るようにする。